情報処理

伊勢市長への「伊勢市の地域課題解決プラン」報告会

この報告会は、平成29年度より伊勢市が提供する「ビッグデータ」を活用して、伊勢市民や伊勢を訪問する観光客に有益な情報や役に立つアプリを提供することで、地元の高校として少しでも地域貢献に役立ちたいとの思いからスタートしました。

近年では伊勢市の地域課題を高校生の目線で考え、それに必要となる情報を収集し、分析や調査を行い改善に向けた企画立案に取り組んできました。令和4年度は、情報処理科3年生「ビジネス情報管理」受講者39名が8つの企画（観光・農業活性化・5374ゴミナシ〉・食品ロス・観光誘客・商店街活性化・地域コミュニティ・マイボトル）に取り組み、令和5年1月23日（月）に鈴木健一伊勢市長を学校にお招きして、1年間の成果を発表しました。

各班の考えた企画では、伊勢市の提供する各種データや総務省統計局の統計データ、地域経済分析システムRESASなどの情報を活用し、時には地域住民がどのような考え方や知識を持っているのかと、シール投票方式のアンケートを「ぎゅーとら」と「ララパーク」にて実施して、必要な情報を収集・分析・活用して様々な角度から根拠を持った提案を行いました。

スマホ教室

令和4年8月25日に「いせトピア」で開催された「高校生によるシニアのためのスマホ教室」は、伊勢市教育委員会社会教育課から「シニア世代にスマホの操作を教えたい」との依頼から始まりました。

宇治山田商業高校情報処理科では、コンピュータの操作だけではなく、知的財産やセキュリティなどについても学ぶが、学んだ知識を活かした取り組みが十分出来ていないことが課題となっていました。そこで、自分たちも普段から利用するスマートフォンの操作方法だけでなく高齢者が詐欺などに合わないように心がけてほしいことを伝えたいとこの企画に3年生が立ち上がりました。

スマホ教室当日は、多数の応募の中から選ばれた40名の参加者に、生徒28名が講師として午前と午後に分かれて操作方法を教えました。事前の調査では「LINEの操作や友達の追加」、「写真の撮り方や送信の仕方」など、生徒からすると簡単な操作でも、参加するシニア世代にとってはとても難しく言葉の意味すら分からない人もいた中で、シニア世代に分かりやすく伝えるためには、どのような声を掛ければいいのか試行錯誤しながら取り組みました。

参加者の方からは、「わかりやすかった」と感想をもらいとても充実した時間を過ごすことが出来ました。今後も、学習成果を地域に還元し出来る取り組みに挑戦していきたいです。

年（令和4年）8月15日（月）　毎日

スマホ操作 孫世代に教わろう

高齢者向け無料教室

伊勢で25日 講師は宇治山田商生徒